

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077800060
法人名	有限会社 ベストライフ
事業所名	グループホーム はまの里
所在地	福岡県久留米市城島町浜2 2 6 - 2 (電話) 0942-62-3513

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年1月31日	評価確定日	平成20年3月11日

【情報提供票より】 (平成20年1月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 13人 非常勤 1人 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨準耐火 造り
	2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	780 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年1月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	7 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田病院 田中歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洋風2階建ての事業所は落ち着いた色調で周囲の田園や民家の風景に調和し、玄関脇の花壇は清楚で心和む風情がある。利用者の穏やかな笑顔とすっきりとした整容の様子が印象的で、朝のラジオ体操は一人ひとりが自由に体操し、生活の中のリハビリに繋がっている。地区長を通じて敬老会や運動会の行事などに参加し、地域の人々と楽しい時間を過ごしている。運営者・全職員は利用者との心の交流を大切にし、運営理念の「地域社会へ貢献を目指す」の実践に意欲と情熱を持ち取り組んでおり、更なるケアの質の向上に期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、一部の職員が中心に改善計画をたて改善シートを作成し、一部取り組んでいる。全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して取り組んでほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と一部の職員で取り組んでいる。全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して取り組んでほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者や事業所の実態や外部・自己評価等を報告し、意見や助言を得ている。地域との更なる交流も議題に上がり、地域の独居老人支援への取り組みの検討や災害時の地域協定への意見が貰え「災害時協力依頼締結書」を交わす等、運営やサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置し、玄関に第三者相談窓口を掲示して入居時に説明している。家族来訪時に意見や不満等を聴取するよう努め、おむつを使用しない夜間の排尿誘導や食事量の調整、個人情報保護の遵守等、それらを運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の運動会や敬老会、季節行事に参加している。地区長から野菜苗を植えて貰ったり、近隣から花や野菜の差し入れがあり、ハーモニカのボランティアを受け入れたり、近隣小学生との交流がある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に貢献できる事業所を目指し、地域生活の継続支援と事業所の役割等について、事業所独自の理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時やミーティング時に全職員で理念を復唱し意識化を図っている。言葉かけ・行動等に理念を反映させ、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の運動会や敬老会、季節行事に参加している。地区長から野菜苗を植えて貰ったり、近隣から花や野菜の差し入れがあり、ハーモニカのボランティアを受け入れたり、近隣小学生との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と一部の職員で取り組んでいる。前回評価での改善課題については、一部の職員が中心に改善計画をたて改善シートを作成し、一部取り組んでいる。	○	全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して自己評価と外部評価に取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者や事業所の実態や外部・自己評価等を報告し、意見や助言を得ている。地域との更なる交流も議題に上がり、地域の独居老人支援への取り組みの検討や災害時の地域協定への意見が貰え「災害時協力依頼締結書」を交わす等、運営やサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレット・事業所便りを持参し、近況を報告したり事務的な相談を行っている。行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については管理者・計画作成担当者が研修を受け、入居時に本人・家族に説明している。	○	制度に関する研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。また、テキストや研修記録・報告書を保管し、整備してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回、事業所便りを発行し、月1回、手紙や写真を送付している。家族来訪時に暮らしぶりや健康状態を伝え、緊急時には電話連絡し、後に手紙で報告している。金銭管理については、金銭出納簿を個別に作成し、領収書はコピーを手渡すか送付している。出納簿に家族のサインがある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、玄関に第三者相談窓口を掲示して入居時に説明している。家族来訪時に意見や不満等を聴取するよう努め、おむつを使用しない夜間の排尿誘導や食事量の調整、個人情報保護の遵守等、それらを運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務時間帯・曜日の勤務調整を行う等し、異動や離職を抑えるように工夫している。職員の採用や異動は、母体法人で行っている。	○	職員の交代の際には、利用者へのダメージを防ぐため、引き継ぎ期間を十分に取り、家族等へ報告を行ってほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。レクリエーションが得意な人・手作業が得意な人等得意分野を活かす配置をし、昇進・研修・定年等差別無く、誰もが安心して能力を發揮し生き生きと働けるよう環境作りを目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部研修を一部職員は受講している。人権啓発に関するパンフレットがある。</p>	○	<p>内部伝達研修を全職員に行ってほしい。また、テキストや研修記録・報告書を保管し、整備してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は日常的に学ぶ事や資格取得を推進し、外部研修・自己学習の案内をしている。月2回、全職員が研修内容を共有するため、内部研修・勉強会を行っている。</p>	○	<p>今後は、研修の記録を残してほしい。</p>
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・職員は、他の事業所との交流が薄い。</p>	○	<p>運営者は全職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上を図れるよう取り組んでほしい。</p>
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に本人・家族の見学を行っている。また、事前に病院訪問を十分行い、家族と相談しながら馴染みの関係を築き、サービスを開始している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	衣類の繕い方や梅干・らっきょ漬け・掃除の仕方、季節行事や慣習等、職員が知らない生活の技を教える場面がある。習字・カラオケ等、利用者の得意分野を発揮して貰い、利用者職員と共に過ごし、学び支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、思いや希望、意向等の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、利用者の言葉や表情、行動等から利用者の真意を推し測ったり、家族や関係者に聴取し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の要望を聴き、課題を全職員で話し合い、担当者の気づきや意見・アイデアを反映した本人本位の介護計画を作成している。本人・家族の署名がある。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1回、見直しを行っている。利用者の状態や状況が変化した際は、随時、家族や必要な関係者に電話連絡し、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	利用者の入院にあたっては、本人を見舞いながら、家族・医療機関と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。また本人・家族の状況に応じて、通院や家族・医療機関と協議しての往診等、必要に応じて個別支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、今までのかかりつけ医や事業所の協力医での受診を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者の意向を大切にしながら、家族・かかりつけ医と話し合いを行っている。合意を図って全員で方針を共有し、指針や同意書を作成している。入居時に家族等に説明を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティング等で、全職員の意識向上を図るとともに、日々の関わりで気づきがあれば、リーダーが確認し、その都度、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような対応の徹底を図っている。個人情報保護法の理解に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し、無理強いする事なく、カラオケ・テレビ観賞等、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に準備をし、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりをし、同じテーブルで同じ物を食べている。メニューや、盛り付け等にも配慮し、食事に楽しみが持てるよう考慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴支援を決められた時間帯に行っている。入浴拒否する人については、人を代え、時間を代えながら入浴を支援している。	○	業務内容の見直しや検討を行いながら、一人ひとりの希望する入浴を支援するようにしてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来る事や得意な事を把握し、梅干作り、干し柿、らっきょ漬け、裁縫、カラオケ等、楽しみごとも含めて、一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調、希望に応じて、週2～3回の散歩、年2回の花見ドライブができるよう外出支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら、さりげなく声かけし、一緒に付き添う等して安全面に配慮している。近所の人にも散歩中の交流で、声かけや見守りをお願いし、理解を求めている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備している。年2回、消防署の協力を得て、地域住民へも呼びかけて、避難訓練や消火訓練を実施している。また地域の区長と「災害時協力依頼締結書」を交わし、地域の協力体制をお願いしている。非常用食料や備品を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年1回、栄養士の指導を受け、利用者の状態を考慮した食事内容にし、全利用者の栄養摂取量を毎日チェック表に記録している。水分摂取量の把握は、特別に注意する人のみ行っている。	○	一人ひとりの水分摂取量について、大まかに把握してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の花を活け、利用者はゆったりしたソファやテーブルで思いおもいに過ごし、居心地よく過ごせるような工夫をしている。不快と感じる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、箆笥、鏡、テレビ、家族の写真、仏壇等、利用者の馴染みの物を活かして、その人らしく過ごせる居室となっている。		

※ は、重点項目。